# 日本バハイ全国ユース委員会の構造とその機能について

榎木　宏之

<概要>

本論文では、バハイ行政機構のなかの一機関である全国ユース委員会について述べる。この委員会の構成員で捉える若者の社会における役割と、現在の日本の社会が捉えるそれとでは異なる。現代社会が捉える若者像は、「モラトリアム期」にあり、それで、若者は、社会のマージナルなところに留まる明確なアイデンティティを持たない主体としてある一面では捉えられている。バハイ共同体が考える若者は、これとは全く異なる。バハイ共同体の中の若者には、社会を積極的に変革していく能動的な主体として、その役割が与えられている。

小論では、このような特殊な役割を担うユースによって構成される全国ユース委員会の構造と機能を参与観察を通して分析する。この委員会の現状を、機能用件を用いて読み替えることで、組織内・外での構成員とかかわる相互作用の実態を明らかにする。その相互作用は維持・発展する組織の構造を何らかの形で変えていく。プラスに変えていく機能と、マイナスに変えていく逆機能を分類することで、特別な役割を持つユースを抱える組織を活性化するための媒介変数として改善策の方向性を探る。